

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」  
～ 「真の学力」育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

自ら学びに向かう児童の育成

＜本年度の学力向上策＞

- ・よい授業のアンケート4つの因子のうち算数科では学習のまとめや練習問題をしっかり行う授業になるよう徹底し、「基礎アップ」にかかわる取組をさらに充実させる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を行う。また、学力を定着させるために、家庭と協力して学習習慣を身に付けさせるために、家庭との連携を密にとれる方策を工夫する。
- ・家庭学習の仕方を学校で統一し、保護者と連携して家庭学習に取り組ませる。
- ・S A、少人数指導者を効果的に活用する。個に応じた支援の仕方の工夫・改善を行う。
- ・I C T機器を活用した授業づくりを行う。
- ・課題克服応援シートの活用をする。朝行事の基礎・基本の時間や、学年・学級の時間に取り組み、基礎学力の定着を図る。

＜本年度の振り返り＞

- 研修を通して、学習のまとめや練習問題を適切に授業中に設定し、実践できた。さいたま市学習状況調査において、同学年集団の学力に伸びがみられた。
- ▲進んで家庭学習に取り組めるよう学習の仕方を統一して取り組んだが、学校評価アンケートで否定的な回答が2割程度あった。今後も家庭学習の手びきの広報に努めるとともに、さらに児童が進んで取り組めるような工夫をしていく。
- S Aや少人数指導を活用し、全学年が算数の授業において、T Tまたは少人数で授業を行うことができた。それにより、個別に支援が必要な児童に寄り添うことができ、分からないことをそのままにしないで解決をしようとする児童が増えた。
- ▲新学習指導要領の趣旨をいかすと、今後は個々の学習進度に応じ、柔軟な対応がとれるよう、I C T機器や課題克服応援シートの効果的な活用について工夫が必要である。